

令和元年9月13日

泉南市議会議長  
竹田 光良 様

空港等まちづくり対策特別委員会  
委員長 古谷 公俊

## 空港等まちづくり対策特別委員会 行政視察報告書

下記のとおり行政視察を実施いたしましたので、その概要を報告いたします。

1. 【視察日】 令和元年8月20日（火）・令和元年8月21日（水）

2. 【視察委員】 委員長 古谷 公俊                      副委員長 南 良徳  
                    委員 河部 優                              委員 梶本 茂睦  
                    委員 澁谷 昌子                              委員 和気 信子

3. 【視察先】

①北海道恵庭市    ②北海道石狩市

4. 【調査事項】

①稼げるまちづくりの取り組みについて

②道の駅石狩「あいろーど厚田」について（現地視察）

5. 【視察目的】

恵庭市の稼げるまちづくりの取り組みについて、道の駅石狩「あいろーど厚田」について、調査・研究することにより、本市議会の政策提案力を高めることを目的とする。

6. 【概要】

①北海道恵庭市

●稼げるまちづくりの取り組みについて

1. 観光客の推移と課題

恵庭市は、道都札幌市と新千歳空港の中間に位置し、一日の交通量が2.5万台を超える国道36号や道央・道東自動車道との接続が可能であり、JR恵庭駅に快速エアポートが停車するなど、優れた交通利便性を有している。

平成17年度までは、年間40～50万人程度の観光入込客数で推移していたが、平成18年の道と川の駅「花ロードえにわ」と「えこりん村」の開業を契機として、観光入込客数が120～130万人に大幅に増加し、交流人口が拡大した。

しかし、観光入込客数の大半が「花ロードえにわ」と「えこりん村」に集中している一方で、その他既存観光施設の入込数は横ばいまたは微減の傾向であり、平成

27年度に約135万人を記録して以降は伸び悩んでいる状況が続いている。

滞在型観光が主流となり、滞在者が楽しめる体験プログラム充実などの環境整備が求められている。

## 2. ガーデンデザインプロジェクトの概要

内閣府が「稼げるまちづくり」の有望事例としてとりまとめた「地域のチャレンジ100」で、恵庭市の取り組みが紹介。花苗生産地である恵庭市において、住民全体で、個人の庭を対象にしたオープンガーデンコンテストや商店街の街並み景観整備等を実施するとともに、道の駅での「花の拠点」の整備により、花のまちづくりを推進。

また、恵庭駅前に公共施設の移転集約を図り、民間活力により官民複合施設を整備し、賑わい拠点を形成。

上記の関連事業を総合戦略において「ガーデンデザインプロジェクト」として位置づけ、各種事業を横断的に展開。

### (1) 目的

都市計画マスタープランの推進と総合戦略、人口ビジョンに基づいた恵庭市の特性を生かした施策として、民間事業者との連携を念頭に新たな住宅系や工業系土地利用の推進、JR駅周辺への公共施設複合化による機能集約などを進め、さらにこれらを観光施策や公共施設マネジメントとの複合的一体的施策として、少子高齢化に対応した、歩いて暮らせる住みやすいまちづくりを目指す。

### (2) 花の拠点整備事業

#### ①道と川の駅「花ロードえにわ」

年間100万人が訪れる施設であり、国道側玄関口に位置する「核」施設のひとつとなっている。令和2年度の供用開始を目指す花の拠点整備事業の一環として、運営管理事業者を公募し、民間事業者を選定。平成31年4月にリニューアルオープン。

#### ②センターハウス（旧保健センター）

「花のまち恵庭」として「花のまちづくり」を進めていく上で、花の拠点の整備や次世代の人材育成などハード・ソフト面での取り組みが求められている。その取り組みのためのパブリックスペースとしてセンターハウスを整備する。現在、令和2年開業に向けて改修事業者を公募中。

#### ③宿泊施設

都市公園内において収益施設と周辺の園地等を一体的に整備する民間事業者を公募する制度（Park-PFI）を活用し、花の拠点整備エリアの一角に宿泊施設を整備する。令和2年度中に供用開始予定。

(3) 松園地区住宅整備事業

花の拠点と連携した住宅地整備により、まちのブランドイメージの拡大と移住・定住促進を図る。

○スマートタウン構想

- ①環境・・環境に配慮した省エネ・創エネ住宅団地
- ②景観・・地区計画や建築協定による景観形成
  - ※高さの制限
  - ※周辺環境と調和した建築物の色彩
- ③多世代同居コミュニティ・・ゆったりとした宅地の形成（大規模住宅）

(4) 恵庭かわまちづくり計画

道と川の駅「花ロードえにわ」周辺における花の拠点整備及び民間事業者による新住宅団地建設と連携し、漁川へのアクセス向上や親水施設を整備し、より魅力的な水辺空間を創造する。

○ハード事業

- ①ワンドを整備し階段や観察デッキ等を設け、川とのふれあいの場を提供（サケの観察）
- ②花の拠点との連続性、海岸の親水性に配慮した整備で魅力的に（親水護岸の整備）
- ③崖地、窪地を埋め、花の拠点、新住宅団地と河川空間を結び、川とのふれあいの場を創出
- ④散策路による自然の鑑賞

○ソフト事業（継続事業）

- ①恵庭・花とくらし展、えにわマルシェ in 花ロードえにわ
- ②えにわシーニックナイト
  - ・道と川の駅「花ロードえにわ」をはじめ、市内の各会場を舞台に、アイスキャンドルを灯すイベント。雪とキャンドルが織りなす幻想的な風景が印象的。
- ③稚魚（サケ・ヤマメ）の放流事業
  - ・恵庭市内小学校の授業での稚魚放流を通じて、河川環境や大切ないのちを学ぶ「河川学習事業」を実施。

(5) 新工業団地整備

第5期恵庭市総合計画や総合戦略における就労促進や地域産業活性化を目的としたガーデンデザインプロジェクトの1つの柱であり、検討を進めてきた。現在は地区を決定し計画を進めており、造成工事中である。

## ○計画

- ・ 事業手法：組合による土地区画整理事業
- ・ 土地区画整理事業面積：約 11ha
- ・ 想定用途区域：工業専用地域

### (6) 緑と語らいの広場複合施設（えにあす）整備事業

遊休地となっていた市所有の未利用地について、定期借地権方式により公共機能と民間機能を複合的に整備。恵庭駅に近い立地特性を活かして、新たな賑わいを創出する。平成 30 年 4 月にオープンしており、約 45 万人が来場。

#### ①事業目的

- ・ 官民連携による恵庭駅周辺の賑わいの創出
- ・ 公共施設マネジメント

#### ②導入機能

【民間部分】 1,348.29 m<sup>2</sup>

- ・ 健康増進機能（フィットネスクラブ・スポーツクラブ）
- ・ 生活利便機能（イトイン付コンビニエンスストア）
- ・ 地域情報発信機能（FM e-niwa）

【公共部分】 2,355.43 m<sup>2</sup>

- ・ 市民活動センター、保健センター、図書恵庭分館、学童クラブ、子どもひろば、子育て支援センター、夜間・休日急病診療所

#### ③事業スキーム

- ・ 事業用定期借地権期間（30 年）
- ・ 事業者が土地を借地し、建物を新築及び所有。
- ・ 市及び民間テナントへ賃貸。

## 3. 今後の取り組み

### (1) 「観光・住宅・交流機能の拡充」

- ①新住宅団地検討（市街化区域拡大）
- ②花の拠点整備
- ③恵庭かわまちづくり

### (2) 「新たな工業需要への対応」

- ①既存工業団地の用途拡大
- ②新たな工業団地開発検討

### (3) 「公共機能集約、地域交流」

#### ① 緑と語らいの広場複合施設（えにあす）

これらを複合的に推進することにより、

⇒ 「田園と都市の融合を目指し、職・住・観光機能の拡充を図る」



## ② 北海道石狩市

### ● 道の駅石狩「あいろんど厚田」について（現地視察）

#### 1. 建設の背景・経過

○平成 17 年 10 月 石狩市、厚田村、浜益村が合併⇒新石狩市が誕生

これに伴い、地域住民で組織される地域協議会が設置され、「自分たちでできることは自分たちの手でおこなう」を合言葉に地域で発生する様々な課題を洗い出し、その解決に向けた方策を検討、地域活動へとつなげてきた。

○平成 25 年 12 月 「複合施設建設構想策定委員会」を立上げ

地域での活動（ソフト事業）を踏まえて、地域振興の核となる建物（ハード事業）のあり方について検討を開始。

○平成 27 年 1 月 重点「道の駅」に選定

国土交通省が地方創生の拠点として先駆的な「道の駅」モデルを募集。この募集に対して、「近説遠来」をキーワードとした道の駅の企画書を提出し、選考の結果、重点「道の駅」として選定。

○平成 29 年 3 月 起工式

道の駅オープンに向けた活動が本格化し、地域住民への説明会を実施。道の駅の PR とともに、厚田の魅力を発信。

○平成 30 年 4 月 27 日 オープン

## 2. 施設概要

- ・敷地面積・・・24,472 m<sup>2</sup>
- ・建物構造・・・鉄筋コンクリート造 3 階建て
- ・建築面積・・・794 m<sup>2</sup>
- ・延床面積・・・1,333 m<sup>2</sup>
- ・総事業費・・・約 14 億円（内 4 割は国からの交付金）

○1 階・・・石狩の味覚と地域情報のフロア

一年を通して味わえる地元食材にこだわった飲食店や、新鮮で安全な石狩の特産品・お土産の販売、そして石狩の観光情報を紹介。また、24 時間・365 日使用ができるトイレを設置。

○2 階・・・歴史と食のフロア

厚田近郊の歴史・文化・自然について、多数の資料と展示で紹介。さらに、地元食材を使ったバリエーション豊かなグルメも楽しめる。

○3 階・・・展望フロア&デッキ

日本海に沈む美しい厚田の夕日や、海から幸せを運ぶさわやかな「あい風」を楽しむことができる。

※「あい風」・・・厚田に吹く風を親しみを込めて「あい風」と呼ぶ。

## 3. 施設運営

平成 29 年 4 月に施設の運営を主体的に行うとともに、地域の交流人口の増加や地域産業の振興などを行う事業会社（第三セクター）を設立。

- ・設立会社・・・株式会社 あい風
- ・業務領域・・・道の駅及び厚田公園、キャンプ場を含むあいろーどパークの施設運営管理
- ・資本金・・・800 万円（市が 100% 出資）
- ・指定管理料・・・約 5,000 万円

## 4. 入込客数推移

年間の入込客数推移を 20 万人として想定したが、半年で 50 万人を超える客数と

なった。冬はかなり落ち込んだが、2018年度で60万人を超える客数であった。

・2018年度入込客数・・・612,702人 ※4月27日（オープン）よりカウント

・2019年度入込客数・・・244,712人 ※4月～7月

## 5. 今後の取り組み

初年度に比べ入込客数が減少してくることが予想されるため、どのようにして集客していくかを、指定管理者と協議していく。冬は通行止め等あり、イベントを計画してもできないリスクがある。このため冬の集客は見込まず、2階のテナントは冬には出店せずに経費を浮かしている。

また、スペースを活用する事で、展示会や地域の集まりにも使用していただいている。



## 7. 【所感】

### ①稼げるまちづくりの取り組みについて

去年、大阪府市議会議長会議員研修会で読売TV報道局副部長、高岡達之氏の講演でまちづくりについて恵庭市のえこりん村の視察の良さもあり、まちづくりの取り組みについても官民一体となり非常に良い取り組みをしており、また泉南市と人口・世帯数が近く類似として今後の我が市に非常に参考になるので視察に至った。

稼げるまちづくりについて、札幌と千歳の間になり通過市になってしまっていたが、観光客をうまく取り込み駅前整備の充実、花のまち恵庭、読書のまちとして市民参加型の予算をかけないやり方に非常に興味を持ち参考になった。

また、2年先には都市公園に泉南市と同様PFIにて大手ハウスメーカーの宿泊施設を整備し、スマートタウンを目指し人口増、また観光誘致に積極的な取り組みに魅力を感じる。

さらに、北海道・恵庭市が積極的に取り組んで成功を収めているカントリーサインの

ご提案もいただき、我が市にない取り組みを真剣に考えていただいたことも収穫であった。

恵庭市は泉南市と同じく来年市制施行 50 周年を迎えるので、今後良い情報交換のできる市として交流したいと思う。

## ②道の駅石狩「あいろーど厚田」について

2 年前に開設され道内、全国区となった道の駅の視察にあたり、苦労話や冬場大雪のために来場者を見込めない中の官民一体、地域、歴史と観光をうまく取り入れた道の駅で、年間 50 万人以上の来場者で非常に良くできた道の駅で、運営管理をされている社長さんもトップセールスを自ら行っており、観光客も増加していることが納得できる施設であった。

参考として、泉南市埋蔵文化財センターと道の駅を合体した形を想像できた。

今後は数年後の来場者減の対策を検討中とのことであった。我が市も老朽化していく施設もいくつかあるので今後の取り組みに大変参考となった。

また、地元、地域物産をうまくタイアップさせて販売協力やPR活動（ホームページ etc.）を行っていることで石狩市の魅力を伝えていることが、非常に参考となった。